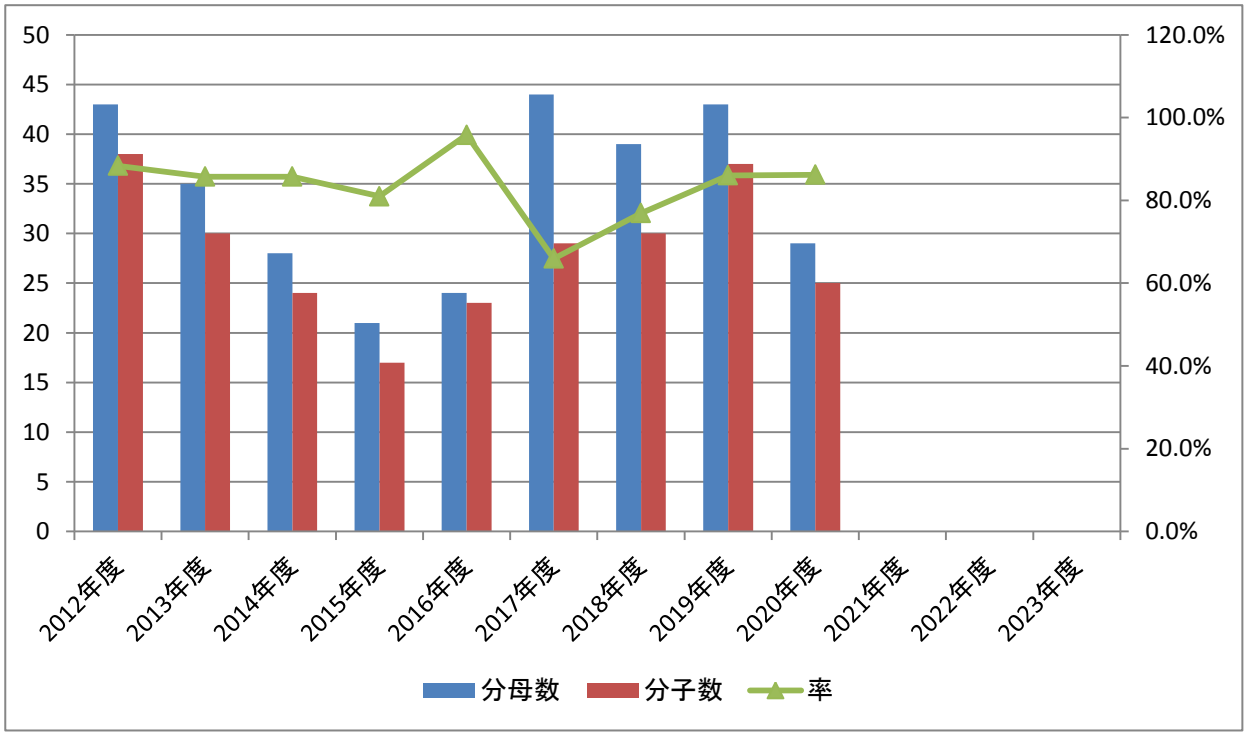
08：出血性胃・十二指腸潰瘍に対する内視鏡的治療（止血術）の施行率

分母	医療資源を最も投入した傷病名が「胃潰瘍」あるいは「十二指腸潰瘍」で「急性、出血を伴うもの」に該当する退院患者数
分子	分母のうち、「内視鏡的消化管止血術」が算定された患者数
備考	
概要	胃潰瘍・十二指腸潰瘍とは酸やペプシンなどによって胃壁あるいは十二指腸癖が障害され欠損した病態をいいます。出血性胃壁・十二指腸壁の障害部位に血管があると破綻し、出血を起こします。破たんした血管に対しては止血処置が必要であり、一般的には内視鏡的止血術が行われています。H2受容体拮抗剤の登場以来、外科的手術は大幅に減少し、現在では大量出血や内視鏡での止血困難例、穿孔、狭窄など重篤な合併症を認めた症例に限られています。

施設コード	調査開始日	調査終了日	分母数	分子数	割合
210111438	20120401	20130331	43	38	88.37%
210111438	20130401	20140331	35	30	85.71%
210111438	20140401	20150331	28	24	85.71%
210111438	20150401	20160331	21	17	80.95%
210111438	20160401	20170331	24	23	95.83%
210111438	20170401	20180331	44	29	65.91%
210111438	20180401	20190331	39	30	76.92%
210111438	20190401	20200331	43	37	86.05%
210111438	20200401	20210331	29	25	86.21%
210111438	20210401	20220331			#DIV/0!
210111438	20220401	20230331			#DIV/0!
210111438	20230401	20240331			#DIV/0!